

ストリングに矢を番えるポイントのノッキングポイントの位置について考察してみましょう。
まず考え方と測定の仕方および位置の確定の方法についてまとめてみます。

1. ノッキングポイントの位置の計測と考え方

従来の計測方法は弓を引いていない状態でフィストメルゲージでストリングにぴったり沿わせて直角の位置をレストの上面に当てたときのその位置からノッキングポイントの下側の上面つまりノックの位置の下面までの距離を指します。

通常、1/4から1/2インチや3mmから10mmという表現があります。調整はあとからやるにしても最初はこの範囲にしておきましょう。理屈から言えば番えただけでは矢は少し下向きになる感じになるのが普通です。

私流の考え方は

- ・昔はクッションプランジャーがなかったのでハンドル側はレストが基準
- ・現在はプランジャーはあたりまえになっている
- ・プランジャのチップのセンターを通るようにレストをあわせるのが通例
- ・矢のパリエーションから同じ弓でアルミ矢とカーボン矢を使い分けることがよくある

で、私の基準位置はプランジャーのセンターの位置からノッキングポイントのノックの位置の中心がどれだけ上に調整するかで数値を出しています。そうすると太さの違う矢であってもノッキングハイは同じ考え方で計測できます。従来の方法では太さが異なる矢の場合同じ考え方にならないからです。ただし、弓と矢を固定した場合繰り返し再現性を持った計測方法は従来の方法でもかまいません。またプランジャーがない初心者用の弓の場合は従来の方法しか計測できません。

2. ノッキングポイントのあわせ方

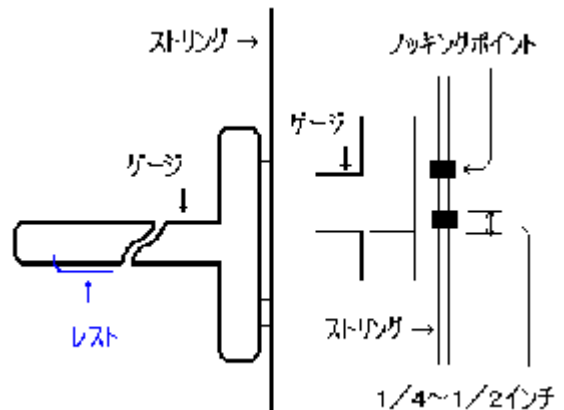
ノッキングポイントは矢を番えた時、わずかに矢が下を向くようになっていますが、これで正常です。矢が上向きではおかしいのでストリングやノッキングポイントおよびリムなどの点検・調整を考えてください。ここでは下向きになる理屈は割愛させていただきます。

さて、では数値が範囲で示しているのは条件が弓や矢によって微妙に異なるため総合的な結果つまり、矢を実際に射って結果から判断してフィードバックさせながらチューニングすることを行います。

仮のノッキングポイントの位置が決まったらノッキングポイントを作って

1. 近射から矢の立ち方を見てください。水平に発射した矢の刺さり方がノックが上向きの場合ノッキングポイントが高いといってほぼ水平ぐらいになりように調整しましょう。その他ペーパーチューニングという方法もあります。

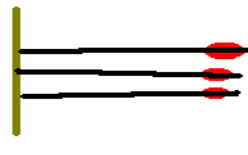
2. 上級者は次の段階では羽根のない矢と通常の矢で比較して15-20mの距離で発射した矢の立ち方で(グループング)判断して調整しますがここでは割愛します。



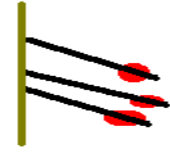
図の参照はArchery Cityより引用させていただきました
<http://www.usiwakamaru.or.jp/~doraemon/index.html>



ノッキングポイントが高い



適正



ノッキングポイントが低い